



谷口 研二

奈良工業高等専門学校長

第148回直木賞が発表されました。この賞は大衆小説の最も優秀な作品に贈られます。今回、高専の卒業生がこの賞を受賞したことはとても嬉しいことです。受賞者は阿部龍太郎氏（久留米高専出身）、作品では安土桃山時代の絵師、長谷川等伯の生涯を描いています。

奈良高専出身者の中にも小説家があります。企業勤めの傍ら文筆業として活躍していた宇田伸夫氏です。大和と朝鮮半島とのつながりを描いた小説、「百済花苑」、「新羅花苑」などは本校の図書館にも寄贈されています。これらの本を読めば、高専教育の中で育った先輩からきっと何かを感じ取ることができるでしょう。

○読書の勧め

小説の好きな人は文字情報から物語の展開をイメージして、頭の中でもう一つの人生を体験しています。このような仮想体験を通して、若者でも人生経験が豊かになります。勿論、小説以外の随筆、哲学、歴史書などのカテゴリーでも、読書を通して作者の人生観や思想を知れば、人間的に一回りも二回りも大きくなります。

本を読んで勉強するのは学校を卒業するまで、と思っている人がいるかも知れません。しかし、現実はその逆です。卒業後は、親身に指導してくれる人はもういません。仕事の現場では、結果はすべて自己責任という厳し

い現実を突き付けられます。こんなとき専門書を読んで問題を解決したり、自己啓発のための読書が欠かせません。高専時代は、その準備段階として、読書の習慣を身に付けて欲しいのです。友達の中には、図書館を活用して年間100冊を超す猛烈なペースで読書をしている人もいます。時間的に余裕がある今だからこそ、本を読んで生き抜く智慧を身に付けてください。皆さんは、インターネットで手軽に書籍が入手できる時代に生きています。思い立ったらすぐにでも読書はできるはずです。

○インターネットの利用について

最近、ネットを活用した新しい情報伝達の世界が拓けてきました。しかし、その一方で幾つかの問題も顕在化しています。それは、①著作権の侵害、②誹謗・中傷の書き込み、などです。①に関しては、ウェブ上の文章や図面の出典を明記せずに利用する人が増えています。高専はコピー＆ペースト人材を育成する機関ではありません。課題が与えられた時、他人の書いた文章をそのままコピー＆ペーストすることは止めましょう。勿論、ウェブ上で公開している文章や図面を参考にしてデータ整理や図面を改変するのは構いません。物事を判断する基礎資料を収集するためのツールとしてネットを上手く活用してください。

もう一つの問題（誹謗・中傷の書き込み）は匿名で情報発信できるインターネットの特殊性に関わっています。だからと言って、根拠のない情報をもとに、他人を誹謗・中傷する行為は決して許されません。無責任な書き込みに悪乗りしてサイトが炎上することもあります。マスコミの報道や書籍などの情報でも100%信頼できるものではありません。ましてや巷に流れている情報には多くの間違いがあります。そうだとすれば噂話をもとに他人を誹謗・中傷することはできないはずです。良識ある学生として正しいネット利用をお願いします。集団生活をしている私達は、仲間との関係を良好に保つため、「ありがとう」、「ごめんね」、「おねがいします」などの言葉を添えて会話をしています。ネットに書き込む際も、それと同様、相手を思い遣る言葉を一言、二言付け加えてください。すべての人がそんな配慮をするだけで、将来、ネット社会での生活が心地良いものになるはずです。

